

学校法人東京純心女子学園中期事業計画
令和6年度～10年度（5ヵ年）

令和6年9月
学校法人東京純心女子学園

目 次

1. 中期事業計画について
2. 今期中期事業計画における財務上の数値目標
3. 中期事業計画期間における重点事項等に係る方針
4. 実施計画
 - (1) 建学の精神・ミッションを踏まえた学校法人の目指す将来像
 - (2) 教学改革計画【東京純心大学】、【東京純心女子高校】、【東京純心女子中学校】
 - ① 設置校・学部の特徴（強み・弱み、機会、脅威、内部外部環境分析）
 - ② 学部等の改組・募集停止・定員の見直し等
 - ③ カリキュラム改革・キャリア支援等
 - (3) 学生募集対策と学生数・学納金等計画
 - (4) 外部資金の獲得・寄付の充実
5. 組織運営体制
 - (1) 理事長・理事会等の役割・責任
 - (2) 経営改善のための検討・実施体制今後の検討・実施体制
（プロジェクトチームの設置等）
6. 資産の所有状況

学校法人東京純心女子学園中期事業計画

(令和6年度～10年度)

1. 中期事業計画について

本計画は令和6(2024)年度から令和10(2028)年度までの5年間に本学園が取り組む経営改善のための様々な事業等についてまとめたものです。

本学園では、令和元(2019)年度から令和5(2023)年度までの5年間で教育活動収支差額の黒字化を目指す「中期事業計画(5か年)」を策定し、大学においては保健師課程の新設や入学定員の変更、現代文化学部募集停止、中高においては特待生制度や海外留学制度の充実や午後の時間に様々なアクティビティを体験するFYMプロジェクトの導入など、様々な学校改革に教職員一丸となり、学生・生徒数の確保に取り組んできました。

しかし、本学園が立地する八王子市をはじめとした多摩地区西部では15歳未満人口の減少が進んでいるなど学園を取り巻く社会環境は厳しく、また、新型コロナウイルス感染症の影響により、学生・生徒募集のための活動が制限されるなど、思うような学生・生徒数の確保ができず、改革の取組みを収入増につなげることができませんでした。

本学園には金融機関等からの借入金はありませんが、収支状況の悪化により、これまで蓄積してきた資産は減少しています。今後も安定的な学園運営を継続するため、この中期事業計画に則り、抜本的な経営改善に取り組んでいきます。

【入学者数の推移】

		令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度
東京純心大学	現代文化学部	20名	28名	18名	14名	募集停止	
	看護学部	62名	75名	65名	72名	78名	90名
東京純心女子高等学校		77名	68名	62名	81名	83名	80名
東京純心女子中学校		45名	35名	31名	32名	25名	27名
学園計		204名	206名	176名	199名	186名	197名

2. 今期中期事業計画における財務上の数値目標

前期計画では学納金等の収入を増やすことに重点を置いた収支改善に取り組んできましたが、本学園における財政悪化の大きな要因の一つとして、他法人と比べて人件費率(人件費/収入)が高い傾向がみられるため、そのことを改善しない限り今後の収支改善を望むことは出来ません。

そのため今期計画では、これまで取り組んできた学生・生徒数確保による収益増策に加え、事業・人

員体制見直しによる経費削減により、支出の是正に取り組み、財務状況の改善を目指します。

※ 今後5年間の項目別数値目標は別紙に記載しています。

3. 中期事業計画期間における重点事項等に係る方針

高い水準にある人件費率の引下げを今期経営改善計画期間における最重点事項と位置づけます。

カリキュラムの見直し等により学生・生徒数に見合った学校運営を目指し、不要不急の事業や費用対効果の低い事業の休廃止等を徹底することにより、学生・生徒の学習環境に影響の無い範囲内で支出の削減を図ります。

また同時に、学生・生徒数の確保による収入増にも引き続き積極的に取り組むことにより、支出減、収入増の両面から「人件費率」の引下げを目指します。

4. 実施計画

(1) 建学の精神・ミッションを踏まえた学校法人の目指す将来像

本学園はカトリック的教育理念に則り、学校運営を行うミッション校であり、長崎に本部を置く女子修道会「宗教法人純心聖母会」を設立母体としています。

昭和39年に女子高等学校を開校以来、昭和42年に短期大学、昭和61年に女子中学校、そして平成8年には短大を4年生大学に改組するなど、常に地域社会の要請に応えつつ、八王子の地において一貫してカトリック的人類愛に根ざした教育理念に基づき、平和的国際社会と地域社会のよき担い手となる人材の育成を目指してきました。

「純心」の名は、愛と奉仕の精神に生きた聖母マリアの「けがれの無い心“Immaculate Heart”」に由来しており愛と奉仕の精神をもって社会に貢献できる人間教育（純心教育）の実践方法として「マリアさま いやなことは私が よろこんで」という学園標語を掲げ、これまで約1万5千人の同窓生を育てています。

今年度は学園創立60周年という節目の年でもありますので、これまでの学園の歩みを振り返るとともに、今後の学園の発展を見据えた経営改善にも学園一丸となって取り組み、愛に根ざした知恵のある人、平和な未来に貢献できる人材を育てていくことを目標にカトリックミッションに基づく教育活動に努めていきます。

(2) 教学改革計画

【東京純心大学】

① 設置校・学部の特徴（強み・弱み、機会、脅威、内部外部環境分析）

学 部	開 設	学 科	入学定員
現代文化学部	平成8（1996）年	こども文化学科	40名
看護学部	平成27（2015）年	看護学科	80名

－現状－

本学は、昭和 42（1967）年に東京純心女子短期大学として開学以降、主に音楽や美術等の芸術系の学部学科での人材を育成してきました。平成 8（1996）年には短期大学から 4 年制大学に改組するとともに、現代文化学部を設置、平成 27（2015）年には看護学部看護学科設置を機に共学化を行い、東京純心大学に名称を変更しています。

幼きイエスを慈しむ聖母マリアの心を模範とした人間教育を建学の精神とする本学は、芸術文化・リベラルアーツ教育の伝統を土台とした感性教育を通して、「愛に根ざした真の知恵」を身につけた、“いのち”を守り育てる保育士・幼稚園教諭、看護師・保健師を育成してきましたが、現代文化学部においては少子化の影響等により志願者数の減少が続き、入学定員の見直し等の改革を行っても、状況が好転しなかったため、令和 5（2023）年度より学生募集を停止しています。

一方、志願者数が増えている看護学部では入学者定員を増やすとともに、予防・健康増進活動の担い手として保健師課程の設置を行うなど、健康に関する意識の高まりや地域における生活の支援等、社会の要請に応じてきました。

現代文化学部は令和 7（2025）年度を持ってすべての学生が卒業する見込みですので、令和 8（2026）年度からは看護学部看護学科の単学部単学科の大学となります。

－問題点と対策－

a. 学园内進学者数

学园内からの進学者について、看護学部においては年間平均 3 人程度であり、学园内進学者数が少ないことが課題となっています。そのため、学园内選抜の申合せ事項及び優遇体制について学园内で協議し、令和 3（2021）年度より選抜方法等を見直すことにより、学园内からの推薦入学者の増加を図っています。

また、令和 2（2020）年度より学园内高校 3 年生を対象に看護学部の基礎教養科目の「Science Basics」の受講を開始し、受講者が本学に入学した場合は単位を付与しています。令和 6（2024）年度からは「大学講義体験コース」と名称を変更するとともに、受講対象者を 1 年～3 年生と広げるなど、早い段階から看護職への興味関心を抱けるようにしています。

さらに、東京純心女子高校に看護師を目指す生徒を対象とした「内部進学コース」を設置します。

b. 看護師国家試験合格率

看護師国家試験の合格率が令和 4（2022）年度、5（2024）年度の 2 年連続で 80% 台であり、令和 3（2021）年度以前に比べ 10 ポイント程度低くなっています。看護師国家試験の合格率は大学教育の結果として重要な数値であり、学生確保のためにも合格率を高めるための対策が急務と考えています。様々な要因を検討し、その結果を踏まえ、個々の学生に適した学習支援の在り方について見直すこと

とし、今年度は学生の主体性を引き出しつつ、かつ支援の強化が必要な学生への個別指導、補講の開講時期の検討、過去問の解き方と学習の展開の仕方などを強化することになっています。

c. 大学の知名度

本学の看護学部が共学であることについて「知らなかった」、「女子大学だと思った」等という声が未だに近隣住民からもあります。男子学生の占める割合は徐々に増えている状況ですが、大学の認知度を高めるとともに、男子学生の確保が課題と認識しており、そのための広報活動や地域貢献事業の推進、オープンキャンパスやHP等で男子学生を起用するなどの対策を推進していきます。

d. 中途退学者対策

学生の主体的学習能力を推進する教職員協働の学修支援体制を整えていますが、入学年度により退学率や標準修業年限卒業率の変動があることから、支援体制の検証と見直しが必要と考えています。また、退学理由において「進路変更」が最も多いことについては、アドミッション・ポリシーに沿った入学者の確保ができていたかどうか問われており、今後、選抜方法の妥当性の検証を踏まえ見直しを行っていきます。

② 学部等の改組・募集停止・定員の見直し等

ー対応策ー

a. 現代文化学部の募集停止

前述したとおり、現代文化学部は志願者数の減少に伴い、入学者数の確保が難しい状況となったことから、令和5（2023）年度より募集停止としました。現在3年生と4年生が在籍していますが、社会に貢献できる人材として学生自身が自信と誇りをもって卒業できるよう、教職員協働体制のなかで学修や学生生活を支援しています。

これまで現代文化学部が長年受け継いできた平和への祈りや他者への奉仕の精神の具現化である純心ならではの伝統ある学内行事等（創立記念行事、聖母祭、こどもの国クリスマス、クリスマスコンサート等）は、建学の精神の具体的な表現ですので今後は看護学部が引き継いでいきます。

b. 保健師課程及び別科助産専攻の設置

地域における予防・健康増進活動の担い手を育成するため、令和5（2023）年度に保健師課程を設置しました。令和7（2025）年度には別科助産専攻の設置を予定しており、看護師、保健師、助産師の3つの資格を取得可能な大学として、八王子市や近隣市町とも連携した取り組みを充実させ、地域に根差した看護職、あらゆる世代の健康を守る人材の育成に努めていきます。

③ カリキュラム改革・キャリア支援等

－対応策－

a. 2040 年度を見据えた教育カリキュラム改定（令和 8 年度）

本学ではこれまで少子高齢化社会、疾病構造の変化、医療の高度化・多様化・複雑化、医療 DX の推進等、医療・看護を取り巻く環境の変化に沿って、教育カリキュラムを改定してきました。今後は令和 6 (2024) 年 12 月に予定されている「看護学教育モデル・コア・カリキュラム」の改定を受け、本学のカリキュラム改定を令和 8 (2026) 年度入学生から適用できるよう作業を進めていきます。

カリキュラムの改定にあたっては、全ての年代の急性期から慢性期、地域在宅医療に対応できる幅広い看護実践能力を身につけた看護師の育成、及び役割の拡大に柔軟に対応できる看護師の育成のためのカリキュラム構築が求められていることから、本学の建学の精神を踏まえるとともに、2040 年の社会を見据えた看護系人材として求められる資質・能力を備えていくための教育方法について検討を進めていきます。

b. キャリア支援体制の強化

両学部 of 学生の社会的・職業的自立に関する指導を行う学生生活委員会及びキャリアセンターでは、各学部・学科の教員や外部機関と連携した各種ガイダンス、対策講座を開催し、学生のサポートを行っています。また、キャリアカウンセラーを配置し、就職・進学に関する相談・助言を行い、就職内定にいたるまでフォローするなど進路全般にわたり手厚く個別対応しており、今後もキャリア支援体制の充実を図ります。

c. 学生の主体的な学修を進めるための支援体制の強化

学生が主体的に学修を進めることができるように、教員と職員が連携協働し、以下のような学修支援体制を整備してきました。

i. 基礎学力支援センターの設置

入学前学習プログラム、入学時の基礎学力試験の実施等、看護学部の専門科目を学ぶ上で必要となる基礎学力の向上を目的とした基礎学力支援センターを設置し、入学時の基礎学力試験の結果を基に高校時代に十分習得できなかった学力の向上を支援するための補習授業を開講しています。今後も取り組みを充実することにより、入学者の学びに対する意欲向上や学業不振による退学防止を図っていきます。

ii. 大学 I R の活用とアドバイザー制度

I R 委員会が入学前の理系科目の履修状況、高校の評定平均、入試成績、入試区分、入学後の基礎学力試験結果等の教育データを用いて傾向分析を行い、関連の委員会、学部等と情報共有することにより、科目履修、学修支援や中途退学の予防等に活用できるようにしています。

また、退学理由として「進路変更」が多いことから、学生が日々直面する様々な問題を教員が共に考え、助言するアドバイザー制度を設け、面談等を通じて学生が自身の思いや考えを表現できる

ように関わっています。今後も引き続き制度の充実を図り、学生が有意義な学生生活を送れるよう支援します。

iii. 健康サポートセンター・カウンセリングルームの設置

学生の心身の健康保持・増進を目的に健康サポートセンターを設置しているとともに、学生が直面する諸問題に対応するため、カウンセリングルームも設置し、カウンセラー（臨床心理士）が相談及び助言、援助を行っています。

また、アドバイザーの教員が学生から相談を受け、助言・援助が必要と思われる場合は、カウンセリングルームに連絡するなど、健康サポートセンターを中心に学内連携体制を構築し、学生の心身に関する健康相談、精神的支援、生活相談に応じています。

様々な問題を抱えた学生も増えており、直接対面、電話での相談の他にメール、オンライン（ZOOM）による相談を加え、学生がカウンセラーにアクセスしやすいようにしているほか、簡単に取り組めるストレス対処法や日頃から精神的健康を保つ方法など、「カウンセリングルーム便り」を年に3～4回、配信しており、今後も引き続き支援体制の充実を図っていきます。

【東京純心女子高等学校】

ー現状ー

本校は最寄駅からは若干離れた丘陵地に立地しており、交通の便が悪いことは弱みですが、一方で、豊かな自然に囲まれており、学習環境には恵まれています。

また、カトリック学校として宗教教育と平和教育に力を入れていますが、女子校らしく落ち着いた校風で、大学進学状況が良い点も強みと考えています。

一時期低迷していた高等学校の外部入学生数はここ数年漸増傾向にありますが、生徒募集活動のドミナントエリアとしている多摩地区西部は中学受験率が都内他地区に比べて低く、私学への選択を高校入試で検討する家庭が圧倒的に多いという特徴を有しています。

ー対応策ー

i. カトリックミッション校としての差別化

教育内容と結果としての大学合格実績は受験生にとって大きな関心事であることから、この点を積極的に情報開示し、わかりやすく広報していくことにより生徒募集につなげていきます。

同時に、本学園の高校募集時に競合するのは他の私立高校よりも都立高校ですので、生徒募集の際には都立高校との差別化を図っていくことが必要と考えています。

そのため、本校と都立高校との最も大きな違いは宗教教育にあることを学校広報の際には強く意識し、カトリックミッションスクールとしての社会的使命を今後も強く受験生及び保護者にアピールしていきます。

ii. 特色あるカリキュラムの展開

本校では全校生徒がデバイスを持って登校していることから、授業動画による予習、板書内容や授業教材の生徒との共有により効率的な教科指導が可能になっており、「リアル」×「デジタル」の最適な組合せによる価値創造的な学びの推進に取り組んできました。

特に本校はカトリックミッションスクールであることから、聖書にある「Come and see」の言葉どおりに体験を重視しており、令和5年度からは教育課程を見直し、正課授業を終える放課時刻を水曜日以外は13時に早めて放課後の活動に時間を割いています。

放課後活動では、体験系は50講座を設けて自己啓発と自己発見を促しています。カトリックの「誰もがタラントを与えられて生まれてきた」という教えに基づき、生徒は自分のタラント(能力)と使命(市民の務め)とを模索することになりますが、この活動は進路選択において大学入試の総合型入試や学校推薦型入試で問われる体験学習に対応しています。

また、高等教育では学力が必須ですので、学力養成系講座も40講座設けて一般入試で問われる受験学力を養成しています。

体験系も学力養成系も講座は無学年制を基本としていて、生徒は多くの講座から主体的に受講講座を決めていますが、このような特徴ある取組が受験生やその保護者にも浸透し、生徒募集において良い結果が現れ始めていることから、引き続きこの取組みを充実させ、広くアピールしていきます。

【東京純心女子中学校】

ー現状ー

高校と同様、駅から離れているためバス通学にならざるを得ない点は弱点ではありますが、自然に恵まれた環境は素晴らしく、カトリック学校として宗教教育と平和教育に力を入れている点や、女子校らしく落ち着いた校風で思いやりのある生徒が多い点は強みと考えています。

しかし、中学校の生徒募集は非常に厳しい状況が続いており、在校生の6割以上が居住する多摩地区西部の児童人口が減少していること等から、この10年間は漸減傾向となっています。

一方で内部進学した生徒が外部から来た高校入学生に与える影響はとて大きく、友人を愛し、責めることなく受け入れる校風は内部進学者無しには容易に醸成できません。また、併設中学校からの内部進学は高校在籍者数にも貢献していることから中学校の運営は継続することとし、今後は児童人口の減少が少ない多摩地区東部での募集活動をこれまで以上に力を入れて行うことにより、毎年30名の入学者確保を目指します。

ー対応策ー

カトリックミッションスクールである本校における価値創造は、「平和な未来に貢献できる人を育てる」ことにあることから、高校と同様に正課授業終了時刻を13時に早めることで放課後の時

間を長くして各種活動を実体験の機会として設けています。

講座は高校生に提供されているものとはほぼ同一で高校生に混ざって受講することができ、異学年との交流は成長に良い影響を与えています。また、いくつかの講座は校外の大人との交流も含まれるため視野を広げる効果も期待できるなど、当初狙った効果が受験生及びその保護者の間にも浸透しつつあることから、引き続き、この取組みを充実させ、広く対外的にアピールすることで生徒の確保につなげます。

卒業後の進路はほぼ全員が内部進学を選択し、系列の純心女子高等学校に進学していますが、前述のように中学生の課外活動は高校生と共に行っており、先輩へのあこがれを口にする生徒が少なくないことから学校への帰属意識を高める効果も見取れます。

(3) 学生募集対策と学生数・学納金等計画

【東京純心大学】

－現状－

看護学部の変員充足率については、入学定員が 60 名から 80 名に変更となった令和 4（2022）年度以降も 90%を超えており、令和 6（2024）年度は入学者 90 名、充足率 113%という結果でした。しかし、このまま定員確保を続けるのは大変難しいということを見教職員が共通認識として有しており、今後の安定的な志願者確保に向けては、大学の認知度を高め、「アドミッション・ポリシーに沿った看護への志望が高い学ぶ意欲のある学生」を確保するべく努力しています。

志願者数の年度推移をみると、総合型選抜及び学校推薦型（指定校）の志願者数が増えており、年内入試志願者数が増加傾向にある一方、一般選抜は志願倍率、歩留率ともに低下傾向にあることから、令和 6（2024）年度選抜試験においては、選抜区分別の募集定員を見直し、一般選抜の募集定員数を減らすとともに総合型選抜の募集定員を増やしました。

また、総合型選抜のプレゼンテーションでは、高校の『総合的な探究の時間』等で取り組んだテーマ」を追加して選択肢を増やすなど、志願者を増やす取組みを進めています。

さらにオープンキャンパスや入試相談会などでは、学科の説明に続けて、志願理由書・活動報告書の書き方、プレゼンテーションのテーマや方法、また、学校推薦型選抜の小論文の書き方などのレクチャーを行い、受験生が自身の力を最大限に発揮できるよう支援しています。

入試戦略としては、入学者選抜方法の多様化と選抜時期・回数等の変更、志願者目線の募集要項・入試ガイドの作成、指定校枠の拡大、学園内高校・姉妹校との連携強化等の対策をたてます。

広報戦略としては、入試・広報活動実績をもとに、広報媒体を多用し本学の認知度を高め、志願者数、とくに専願者を増やすことを目指し、募集地域・重点校等の選定、高校訪問の質向上、学校案内パンフレットの工夫、受験生目線の大学ホームページの工夫等に取り組めます。

また、大学公式ホームページをリニューアルし、オープンキャンパスでの在学生サポーターの活用、在学生・卒業生の動画や写真の掲載など、受験生目線の情報発信に努めます。

学納金については、現代文化学部の募集停止に伴い、学納金収入が減っていることもあり、収支に

大きな影響を与えています。

－対応策－

①入学者選抜方法の継続的見直し（多様化・差別化）

本学では入学者選抜方法を毎年度検証し次年度につなげていますが、令和 2（2020）年度頃より、9 月から 12 月の選抜試験を受験する、いわゆる年内受験の傾向が強まってきています。一般選抜受験者数の減少が影響していることもあり、令和 6（2024）年度の入学生については年内受験者の割合が 56%と高い結果となりました。こういった傾向を踏まえ、アドミッション・ポリシーに沿った入学者選抜試験の区分や、多面的・総合的な評価について検証し、改善策を次年度の選抜試験方法に反映させていきます。

取組み内容	入学者選抜方法の継続的見直し
目的	入試区分、募集定員数、入試日程、評価方法等の入学者選抜方法を見直し、志願者数の増加と AP に適した看護への志向性の高い学生の確保を図ります。
実施方法	・総合型選抜試験： 募集定員を令和 4（2022）年度 10 名から令和 5（2023）年度から 20 名とし、年 3 回実施します。 ・学校推薦型選抜試験： 指定校推薦の募集定員 35 名のまま、年 2 回実施します。 ・一般選抜： 募集定員を令和 4（2022）年度 30 名から令和 5（2024）年度は 25 名とし、年 3 回実施します。 ・特別試験： これまで社会人と海外帰国生徒が一括りになっていたが、今年度より社会人特別選抜試験・海外帰国生徒特別選抜の 2 つに分けて募集します。 ・その他： 総合型選抜試験のプレゼンテーションに高校時代の「探究」のテーマを加え、テーマの選択肢を増やしています。
実施体制	入試委員会が選抜方法及び評価の観点等の検討、選抜試験実施要領の作成を行い、大学運営協議会、教授会で了承を得て、大学の全教職員の協力の下で実施します。
目標・実績値	【目標値・実績値】 ＜志願者数＞ ※令和 5（2023）年度実績 148 名 令和 6（2024）年度：160 名 令和 7（2025）年度：170 名 令和 8（2026）年度：180 名 令和 9（2027）年度：195 名 令和 10（2028）年度：210 名 ＜入学者数＞ 令和 6（2024）年度：目標値 80 名、実績値 90 名、充足率 113% 令和 7（2024）年度～令和 10 年度：目標値 80 名（定員確保）
実施時期	令和 6（2024）年度より
根拠・エビデンス	＜目標値算出＞

	①志願者数の目標値 志願者数の推移は、令和元（2019）年度 147 名、令和 2（2020）年度 197 名、令和 3（2021）年度 122 名、令和 4（2022）年度 132 名、令和 5（2023）年度 152 名、令和 6（2023）年度 148 名であり、コロナ禍前の数値に戻りつつありますが、令和 6（2024）年度は前年度より 3 人減少しました。過去 3 年間の伸び率は約 7 % 増であることから今後も 7 % 増として目標を設定します。 ②入学者数の目標値 看護学部単独での損益分岐点分析では 79 名の入学者数が必要となるため、入学者定員である 80 名の確保を目標値として設定します。
--	--

②効果的なオープンキャンパス・入試相談会の実施

オープンキャンパスは、志願者に本学のリアルな姿を見て肌で感じてもらう貴重な機会ですので、教職員及び学生から説明を受けることで大学の特色や実際の様子を理解し、入学後のイメージ化につながるようプログラムの充実・見直しを図ります。

また、入試相談会は志願者にとって受験準備に役立つ入試情報が得られる機会ですので、オープンキャンパスや入試相談会の開催回数や時期については、来場者数やアンケート調査結果、高校教員からの進路指導に関する情報のほか、入学者を対象としたアンケート結果等も踏まえて絶えず検討し、見直していきます。

さらに個別の入試相談会は、本学の入学者選抜方法（選抜区分と入試日程等）に合わせた開催時期と回数を検討するなど、これまで以上に効果的な開催となるよう見直し、来場者数の増加を図ります。

取組み内容	効果的なオープンキャンパス・入試相談会の実施
目的	高校生が計画的な進学校を目指せるよう、高校 3 年生に加え、高校 1 年生、2 年生の来場者数の増加を図ります。
実施方法	・ オープンキャンパスの開催は、年 4 回（6.7.8.3 月）とし、3 回は終日実施とする。入試相談会は年 2 回（9.10 月）開催、その後は入試相談 WEEK として 12 ～ 1 月に 3 クール実施します。 ・ 本学に関心がある高校教員対象の説明会を 7 月に学内にて開催します。 ・ 学園内の「中学オープンキャンパス」に参加し、小学生対象に「看護体験」を実施（6 月）します。また、純心高校 1 年生及び新任教員を対象に大学説明会を開催（7 月）します。 ・ 企画内容は、学部学科説明、基礎学力支援センター紹介、保健師課程案内、別科助産専攻の準備経過、実習室や設備見学、学生サポーター企画、看護体験、模擬授業、個別相談、学内ツアーや在学生と話そう、選抜試験対策等です。
実施体制	広報課及び広報委員会に加え、学生サポーターとして登録している学生を中心とし、大学の全教職員協力の下で展開します。併せて教職員による学生サポーター育成を支援します。
目標・実績値	【目標値】オープンキャンパスへの高校 3 年生の来場者数 ※令和 5（2023）年度実績 174 名 令和 6（2024）年度：190 名 令和 7（2025）年度：210 名 令和 8（2026）年度：230 名

	令和 9（2027）年度： 250 名 令和 10（2028）年度： 280 名
実施時期	令和 6（2024）年度より継続実施
根拠・エビデンス	＜目標値算出＞ 2022 年度（2021 年度はコロナ禍のため未開催）のオープンキャンパス参加者数 198 名に対し、2023 年度は 218 名で約 10%の伸び率となっています。オープンキャンパスの参加者数の増が志願者数増に大きく関わることから、今後も 10%増を目標値とします。

③重点的な高校訪問の実施

高校訪問は、確実に受験生の確保に繋げていく上で重要な取り組みです。入試実績及び広報活動実績を踏まえ、訪問校、訪問回数、訪問時期等、訪問目的によって戦略的に計画を立てて実施していきます。

取り組み内容	重点的な高校訪問の実施
目的	本学の特徴を認識いただけるよう各高校の進路指導教員との関係を構築します。
実施方法	指定校、受験実績校を中心に、主に三多摩・山梨・神奈川・埼玉・千葉の高校を重点的に訪問します。 入試実績及び広報活動実績をふまえ、受験生紹介挨拶訪問、4～6 月訪問の早期始動、受験生御礼訪問など形を変えて複数回訪問し、本学を知っていただきます。
実施体制	広報課職員による高校訪問やガイダンス参加
目標・実績値	指定高校及び受験実績校訪問約 160 校を各 2～3 回訪問します。 令和 6（2024）～令和 10（2028）年度：330～370 校を訪問します。
実施時期	2024 年度より継続実施
根拠・エビデンス	指定校 160 校を最低 2 回以上訪問します。 （参考）訪問高校実績：2020 年度 314 校、2021 年度 258 校、 2022 年度 396 校、2023 年度 320 校

【東京純心女子高等学校】

①国公立大学等への進学実績の向上

国公立大学への進学実績は本校の教育力を端的に示すことができることから、1 年次より特進コースを別クラスにし、国公立大学等への進学に向けた様々な学習支援体制を充実します。

取り組み内容	特進コースの充実
目的	特進コースの教育内容を充実することにより国公立大学への進学実績を増やし、本校の教育力を対外的に広くアピールします。
実施方法	従来 2 年次からクラス分けされていた特進コースを入学時から別クラスとし、募

	集を行います。 現状は週 32 単位のところ、令和 7 年度入学生より週 34 単位の教育課程とします。 また、14 時から 17 時までの 3 時間を放課後活動に充てていますが、特進コースの生徒向けには受験学力養成講座を 40 講座設けて受験勉強を支援します。																																													
実施体制	特進コースには担任に加え、外部から招聘した人材を進路部顧問として配置します。進路部顧問は在学 3 年間で計画的に 9 回の個人面談を実施して個々の学習計画を指導しながら遂行できるよう助言を与えます。 面談の内訳はコーチング面談が 6 回、特別面談が 3 回を予定しています。 <table><thead><tr><th colspan="4">1年</th><th colspan="5">2年</th><th colspan="6">3年</th></tr><tr><th>5月</th><th>6月</th><th>7月</th><th>9月</th><th>5月</th><th>6月</th><th>9月</th><th>12月</th><th>2月</th><th>4月</th><th>7月</th><th>8月</th><th>11月</th><th>1月</th></tr></thead><tbody><tr><td>ガイダンス①「大学入学の基礎知識」</td><td>コーチング面談①</td><td>ガイダンス②「夏休みの過ごし方」</td><td>コーチング面談②</td><td>ガイダンス③「国公立大ガイダンス」</td><td>ガイダンス④「早慶ガイダンス」</td><td>コーチング面談③</td><td>コーチング面談④</td><td>ガイダンス⑤「スタートアップガイダンス」</td><td>コーチング面談⑤</td><td>面談⑥「スタートアップ面談」</td><td>ガイダンス⑥「高3夏休みの過ごし方」</td><td>面談⑦「夏の学習計画面談」</td><td>面談⑧「夏の学習進捗面談」</td><td>コーチング面談⑨</td><td>国公立大出願相談</td></tr></tbody></table> 模試の結果を分析し、次の目標を教科ごと、単元・分野・形式別に設定します。 大学受験までの1年間の計画表を作成します。 2年生の12月に作成した計画表の進捗を確認し、計画の修正を行います。 最も重要な高3の夏休みに充実した成果をあげるための大切な面談です。	1年				2年					3年						5月	6月	7月	9月	5月	6月	9月	12月	2月	4月	7月	8月	11月	1月	ガイダンス①「大学入学の基礎知識」	コーチング面談①	ガイダンス②「夏休みの過ごし方」	コーチング面談②	ガイダンス③「国公立大ガイダンス」	ガイダンス④「早慶ガイダンス」	コーチング面談③	コーチング面談④	ガイダンス⑤「スタートアップガイダンス」	コーチング面談⑤	面談⑥「スタートアップ面談」	ガイダンス⑥「高3夏休みの過ごし方」	面談⑦「夏の学習計画面談」	面談⑧「夏の学習進捗面談」	コーチング面談⑨	国公立大出願相談
1年				2年					3年																																					
5月	6月	7月	9月	5月	6月	9月	12月	2月	4月	7月	8月	11月	1月																																	
ガイダンス①「大学入学の基礎知識」	コーチング面談①	ガイダンス②「夏休みの過ごし方」	コーチング面談②	ガイダンス③「国公立大ガイダンス」	ガイダンス④「早慶ガイダンス」	コーチング面談③	コーチング面談④	ガイダンス⑤「スタートアップガイダンス」	コーチング面談⑤	面談⑥「スタートアップ面談」	ガイダンス⑥「高3夏休みの過ごし方」	面談⑦「夏の学習計画面談」	面談⑧「夏の学習進捗面談」	コーチング面談⑨	国公立大出願相談																															
目標・実績値	【目標】 外部からの特進コース入学者を増やします。																																													
実施時期	令和 7 年度より教育課程を改定予定。																																													

②外部入学者を増やすための取組

水曜日を除いて正課授業は 13 時に終了し、14 時から 17 時までの 3 時間を放課後活動に充て、様々な体験講座を提供する取組みや、ICT 教育の強化、海外留学および海外研修の拡大、生徒の自主性を重んじる学校行事運営など、本校が様々な教育改革を進めていることが徐々に地域に浸透してきていますが、今後更に受験者やその保護者、学習塾、域内公立中学校の教員などに広く周知し、外部からの入学者数を増やします。

取組み内容	外部入学者を増やすための取組の充実
目的	学習以外の体験活動を充実することで、効率的な正課授業に加え広範で多彩な放課後活動を生徒に提供していることを広く対外的にアピールし、他校との差別化を図ります。
実施方法	令和 5 年度より教育課程を見直し、正課授業を 45 分にして 32 単位にするとともに、中間試験を廃止して授業日数を増やす一方、授業時の小テストを恒常化する

	ことで学力の定着を図り合わせて理解の確認をしています。 水曜日を除いて 14 時から 17 時までの 3 時間を放課後活動に充て、主にセレクトコースの生徒の受講を念頭にボランティア活動など校外団体との交流や校内での各種体験活動講座を年間 50 講座設けます。 放課後の時間を長く確保することで総合型入試や学校推薦型入試で問われる、高校での諸活動、体験活動を豊富にします。 一方、体験活動系講座は 1 週間に 50 講座設けており生徒は自由に選択して週 5 日間の放課後を活発に過ごすことができおり、このような取組を積極的に外部にアピールします。
実施体制	—
目標・実績値	【目標】 高校からの外部入学者を増やします。
実施時期	令和 4 年度以降、今後も継続して実施。

【東京純心女子中学校】

・戦略的な生徒募集広報

本校が所在する八王子市を中心とした多摩地区西部は児童人口が急減しており、今後も生徒確保が厳しくなることが予想されるため、比較的児童人口の減少が少ない多摩地区東部に募集対象を広げ、広報活動を強化します。

取組み内容	多摩地区東部を対象とした戦略的な生徒募集広報の実施
目的	本校が所在する多摩地区西部は児童人口が急減していることを受け、これまでは広報対象地区として必ずしも力点を置いていなかった多摩地区東部を対象に、本校の特色である「放課後活動が充実している新しい教育課程」を戦略的に広報することにより入学者を確保します。
実施方法	多摩地区東部を担当する教員の配置。
実施体制	令和 6 年度より 2 名の教員を多摩地区東部担当として配置します。
目標・実績値	<目標値> 現状の入学者数維持を目指します。
実施時期	令和 6 年より。

(4) 外部資金の獲得・寄付の充実

① ファンドレイジング（外部資金の調達）

— 現状 —

寄付金については、これまでも学園のホームページに募集案内を掲載し募ってきましたが、積極的に

取り組んできたとは言えず、極めて低調な状況となっています。

また、大学における科研費をはじめ、様々な研究助成等の採択率も芳しくありません。

－問題点と原因（強み・弱み・機会・脅威等の内部外部環境分析）－

これまでは企業や地域の方々を対象とした寄付の働きかけは積極的に行っておらず、主に同窓生を対象に寄付を募ってきましたが多くの寄付を集めることはできませんでした。

寄付を集める際の目的、いただいた寄付の活用方法等について、具体的なビジョン等を示してこなかったなど、寄付をいただく方々への訴求力が不足していたと考えます。

科研費をはじめとした研究助成については、各教員への意識づけだけでなく、研究に取り組むための環境についての検証も行われていませんでした。

－対応策－

同窓生に限らず、広く企業や地域の方々を対象としたファンレイジングに取り組みます。

寄付意欲を高めるため、例えば本学園自慢のパイプオルガンを活用したクラウドファンディングを行い、寄付してくださった方には学園主催コンサートに招待するなど付加価値を設けた募集活動を行なう他、寄付の使い途をあらかじめ明示し、いただいた寄付により整備した備品、設備を学生・生徒が喜んで活用している様子を動画で配信したり、寄付により整備・改修した設備には寄付銘板をつけるなど、寄付していただく方の動機付けを促すような取り組みを行い、外部からの資金調達を推進します。

また、卒業生、保護者の他、教職員OBや取引事業者、地域の方々等、様々なステークホルダーを巻き込んだ「協賛会」組織の立ち上げの検討も行います。

科研費を始めとした研究助成の獲得を進めるため、教員を対象とした説明会や研修会を継続して開催するとともに、事例検討や申請書作成の支援など、研究に取り組みやすい環境を整え、積極的に研究助成に応募できるような体制の構築を検討します。

取り組み内容	ファンレイジング（外部資金の調達）
目的	学生・生徒数の確保が伸び悩んでいる中、収益増を図るためファンレイジング（外部資金の調達）に積極的に取り組みます。
実施方法	同窓生や地域の方々等を対象とした寄付募集やクラウドファンディング、国や都からの公的資金（助成金）の確保します。
実施体制	新たに若手職員を中心に部局横断的なファンレイジングプロジェクトチームを設置します。
目標・実績値	【目標値】 寄付金の募集 令和6年度：1,000千円 令和7年度：3,000千円 令和8年度：3,000千円 令和9年度：3,000千円 令和10年度：3,000千円

	【実績値】
実施時期	令和6年度準備、令和7年度より本格実施

5. 組織運営体制

(1) 理事長・理事会等の役割・責任

本学園では5月、10月、3月に理事会及び評議員会を定期的に年3回開催し、事業計画の策定や実績など経営全般及び業績改善の中期計画について審議し、学校法人運営の質の向上に向けて継続的に努力しています。また、理事会開催月以外の毎月、理事長と常勤の理事等で構成する常任理事会を開催し、より具体的な経営について審議しており、その審議結果は理事会に報告するとともに、議事の概要を学内イントラネットに掲載し、全ての教職員と共有しています。

また、監事もすべての理事会・評議員会に出席いただくとともに、随時、理事長や教職員との意見交換を行うことにより情報を共有しています。

これまでも理事会・評議員会、常任理事会において、経営改善に関する議論は行ってきましたが、成果を上げているとは言い難い状況でした。そのため、理事長及び常勤理事と大学、中高そして法人事務局の幹部職員からなるプロジェクトを立ち上げ、小回りの利く体制で経営改善に関する議論、実践に取り組み、その進行状況は理事会・評議員会及び常任理事会で管理することとしました。

これにより理事長のリーダーシップの下、学園一丸となった経営改善の取り組み体制を構築し、喫緊の課題に対応します。

(2) 経営改善のための検討・実施体制今後の検討・実施体制（プロジェクトチームの設置等）

① 経営改善プロジェクトチーム

財政状況の改善を図るための具体的な取組を検討・実施するため、理事長をトップに、常任理事（学長及び校長）及び法人事務局、大学、中高の幹部職員からなるプロジェクトチームを令和6年2月に設置し、財政再建に向けた方策を検討・実施しています。今後も引き続きこのプロジェクトチームで定めた増収策、支出削減策の進行管理も行い、経営改善の確実な推進を図ります。

② ファンドレイジング（外部資金調達）プロジェクトチーム

ファンドレイジング（外部資金調達）を戦略的に取り組むため、各部門の担当者を中心としたプロジェクトチームを令和6年度中に設置し、これまでファンドレイジングにおいてネックとなっていた事象の点検・見直しや、新たなファンドレイジング策について検討・実施を行います。

③ 戦略的広報プロジェクトチーム（東京純心ブランドの確立）

大学と中学・高校がそれぞれ行っている広報を学園として戦略的に取組み広報効果をこれまで以上

に高めるため、若手教職員を中心とした戦略的広報プロジェクトチームを令和6年度中に設置し、スクールアイデンティティとしての「東京純心ブランド」を確立し、学園のブランド戦略（イメージアップ戦略）に取り組みます。

6. 資産の所有状況

（1）土地

住居表示	面積
八王子市滝山町 2-600	市街化区域 14,350 m ²
	市街化調整区域 40,261 m ²
	小計 54,611 m ²
八王子市丹木町 2-367	1,791 m ²
栃木県那須郡那須町大字高久乙	36,118 m ²

（2）建物

建物名	床面積
中学校校舎（1号館）	2,354.31 m ²
高校校舎（2号館）	6,739.68 m ²
機械室（2号館－1）	28.00 m ²
大学（3号館）	10,152.55 m ²
図書館（4号館）	1,480.85 m ²
特別研究室棟（5号館）	471.23 m ²
大学クラブ室棟（6号館）	1,249.49 m ²
講堂（7号館）	3,352.15 m ²
大学体育館（8号館）	1,006.24 m ²
中学・高校体育館（9号館）	2,186.83 m ²
調理室・クラブ室棟（10号館）	670.58 m ²
事務棟（11号館）	1,014.10 m ²
セントメリーホール(12号館)	1,992.62 m ²

(別紙) 項目別数値目標

取組項目	数値目標	令和6年度 目標値	令和7年度 目標値	令和8年度 目標値	令和9年度 目標値	令和10年度 目標値
学生確保 の方策	入学定員充足率の確保 (看護学部)	100%	100%	100%	100%	100%
	①志願者数の増	160名	170名	180名	195名	210名
	②オープンキャンパスへの 高校3年生の来場者数の増	190名	210名	230名	250名	280名
	③訪問高校数の増	330～370校	330～370校	330～370校	330～370校	330～370校
財務状況 の改善	人件費率の削減 ※令和5年度人件費率 84.4%	81.5%	74.6%	70.8%	70.0%	70.0%
	①学納金の増 ・別科助産師課程の新設 ・入学金の増	—	対前年度 +50,634千円	対前年度 +41,268千円	対前年度 +30,870千円	対前年度 +11,817千円
	②人件費の削減	対前年度 △46,006千円 ※退職金除く	対前年度 △62,174千円	対前年度 △54,904千円	対前年度 △2,887千円	対前年度 △17,891千円
	③事業費支出の減	対前年度 △18,382千円	対前年度 △27,591千円	対前年度 △5,009千円	対前年度 △12,880千円	対前年度 △500千円